

国際ロータリー第2610地区

第61年度 D.2610 ROTARY CLUB OF KOMATSU



小松ロータリークラブ会報



2015～2016年度 国際ロータリーテーマ

世界へのプレゼントになろう
Be a gift to the world

- ◆会 長：上杉 豊明
- ◆会長エレクト：杉本 雅規
- ◆幹 事：徳田八十吉
- ◆副 会 長：橋浦 隆

事務局 〒923-0957 石川県小松市本折町33 アパホテル(小松グランド)2F TEL.0761-24-1340・FAX.0761-24-4700
E-mail: office@komatsu-rc.jp URL: http://komatsu-rc.jp/



オーロラ

撮影：小林 朋子

私は今、大阪への途上にある。(続き)

小松ロータリークラブ

2015～2016年度 会長 上杉 豊明

もう一つの重要性は、この「山」の資質と幸運と、そして不幸とにある、と言ってよい。延暦4年、この「山」に最初に足を踏み入れたのは最澄である。彼は林間に草堂をむすび、当時誰もが手にしなかった志那伝来の天台教学を独り研鑽した。言うもでもなくこの時期、京の都はいまだ未開の地であった。

その未開の大地は、北から流れ込む河川が四方八方に蛇行しながら、いたる所に大小の湖沼をつくり、人の移住には全く不適な土地であったが、桓武天皇は土木技術に秀でた帰化人である奏氏を使って開削し、延暦13年(794年)都を長岡京からここに遷都した。

むろんこの時代、文明の光源は半島ではなく支那(中国)にあった。挙って大陸の文物、文化、仏教等々を取り入れることはことが国是であった時代である。都の造営は桓武帝の意向に従って進められ、その規模は市那の長安に比して壮大なものであった、と言われている。しかし、弱点もあった。いわゆるこの都の「鬼門」である。四明岳から逢坂山へぬげる一帯を含めて、つまり鬼門たるこの「山」に、都の安寧の一切がかかっていたとみてよい。これが、たかだか標高840mに満たないこの「山」の資質である。

(次号につづく)